

編集後記

はじめに

2020年4月7日に東京都、大阪府、福岡県等に新型コロナウイルス感染症の緊急事態が宣言されてから、ほぼ2年が経過した。一進一退の感があるが、ワクチン接種が進み、薬の供給も始まっており、方向としては良い方向に向かっている。エッセンシャルワーカーが最前線に立っているということで注目されがちであるが、地道に長期にわたり、上記ワクチンや薬の研究開発に携わり、成果を出してきた方々にも感謝したい。

知的財産に関する研究

その研究開発の成果発出を下支えしている制度が特許制度である。特許制度とは、新しい技術を公開させる代わりに、その技術を独占的に利用できる権利を与えるという制度であるが、どのような公開情報に対して、どのような独占権を与えるべきかは、物理現象ではないので、測定すれば最終的に分かるということではなく、開示と保護のバランス調整など、かなり難しい。世界統一特許が望まれたりするが、世界統一民法を作るようなもので、その実現はまだまだ先であると思われる。そのような状況であるので、むしろ研究が欠かせない。加えて、技術だけでなく、デザイン、商標、著作物と、いわゆる知的財産と呼ばれるものは、この数十年、特許権、意匠権、商標権、著作権と、権利の総称としては変わりが無いが、物やサービスのデジタル化に伴い、その重要性が高まり、適用の範囲も広がり続けており、研究の重要性は増すばかりである。

この「特許研究」も、それらの広がり続ける知的財産について、35年以上にわたり研究者による研究発表の場の提供を続けてきている。

「特許研究」以外にも、様々な雑誌が各々の目的や特徴をもって、知的財産に関する議論の場を提供してきている。あらためてここで、それら雑誌を誌名だけとなるが、現在も発行中の雑誌に限って紹介する。「特許研究」のみならず、その他の知財関連雑誌や、法律系雑誌での知財関連の論考をぜひ合わせて読んで頂きたい。

なお、下記雑誌一覧は、独立行政法人工業所有権情報・研修館（以下、「INPIT」という）にて調べたものであり、抜け落ちなどがあるかもしれない。この雑誌が入っていないなどの情報があれば、ご連絡頂きたい。

(1) 知財関連雑誌（順不同）

発明	特許
知財管理	A.I.P.P.I.
DESIGN PROTECT	コピライト
特許研究	IP ジャーナル
L&T : law & technology	知財ぷりずむ
知的財産法政策学研究	
日本工業所有権法学会年報	
日本知財学会誌	著作権研究
特技懇	商標懇

(2) 知財関連の論考等が掲載されることがある法律系雑誌（順不同）

各大学が発行する紀要等	
ジュリスト	法学教室
法学セミナー	法律時報
NBL	国際商事法務
判例時報	法曹時報
商事法務	法律のひろば
法学協会雑誌	民商法雑誌

INPIT の研修について

話は変わるが、INPIT では、知財人材育成事業として、次の3つの学びの場を提供している。

①オンラインかつリアルタイム型の研修の提供

②中小企業向けの知財マネジメントのためのケース教材の提供

③IP ePlat という e-ラーニングプラットフォームによる知的財産関連コンテンツの提供

①のオンラインかつリアルタイム型の研修は、初学者向けの基礎研修に加えて、無駄のないより良い特許権等を取得する力の向上を目指す研修などを実施している。

②の中小企業向けの知財マネジメントのためのケース教材については、21年度まで中小企業の海外展開のためのケース教材を提供してきていたが、ご要望に応じて、国内版のケース教材を22年4月頃に17事例をもってリリースする予定である。SDGsを意識した知財活用や、アジャイル開発における知財活用などの事例があるのでぜひINPIT ホームページをチェックの上、ご利用頂きたい。セミナーなども複数回開催予定であり、一度参加して、聞いて頂けると、その良さが分かって頂けると確信している。

③のIP ePlat に関しては、20年4月にシステムを刷新したところ、新型コロナウイルスの拡大と時期が重なり、在宅での学習に便利であったためか、年度の総アクセス数が、以前の約7千から、約22万6千とジャンプアップした。コロナの影響は受

講者側だけでなく、コンテンツ提供としても、特許庁において、集合型セミナー等の実施が難しくなり、INPITと特許庁との協力が進んだ結果、提供できるeラーニングのコンテンツ数が増え、内容も充実してきていることもアクセス数急増の要因となった。大変多くの方に見ていただいているので、ぜひこちらもアクセスして見て頂きたい。お勧めは、「初心者向け説明会」や「実務者向け説明会」に加えて、今話題となっている「IPランドスケープ」に関する動画（ビジネスのカテゴリーを参照）と、若年層向けカテゴリーに掲載している「藤原麻里菜さんが解説！『無駄づくり』を通じた発明」がお勧めである。

ここで、本編集後記の冒頭に戻る。新型コロナ感染症への対応が2年を越えた。その中で、コロナ対応のためのワクチン開発以外にも、学習の分野においては、オンラインツールの発展と、その活用が急速に進化した。オンラインツールの進化により、オンライン学習により時空を越えることが可能となった。しかし一方で、相互のコミュニケーションによる学習に関しては、まだまだオンラインツールの進化が必要と感じており、しばらくは、リアル集合による、あるいは最低限オンラインでの、グループディスカッションなどの相互学習の必要性がむしろ高まってきていると感じている。加えて、ググるで象徴されるように、言葉や基礎知識については、インターネットで調べれば分かる世界となり、その上で、世の中の課題は何かを見極め、当該課題をどう解決していくか

といった、課題解決力が求められる時代となってきている。

INPITにおいても、基礎的な学習は③のIP ePlat（eラーニング）により実施しつつ、より発展的な学習を、オンライン・リアルタイム型研修などでディスカッション等の形式で実施し、より学習効果を高める方向に進むことになる。さらに、課題解決力の醸成のため、必ずしも明確な答えがないような問題を、②のケーススタディなどにより、学んだ基礎的な知識をどう使っていくかを他者と意見交換するような形で学ぶ、場合によっては、実践してそれを持ち寄って議論する、といった研修となる。そのため、INPITでは、来年度、上記①②③の研修をベストミックスにて実施していく予定である。

最後に、知財に関する学びに関して、YouTubeでの学習が大変盛り上がってきている。著名な弁護士・弁理士が、知財に関して様々な観点から短時間で分かりやすく解説してくれている。是非一度知的財産等で検索し、いろいろと見て頂きたい。INPITが関わっている訳ではないが、知財そのものの学習や、知財を活用した経営が進展することに資する今後の有力なコンテンツの一つになる事は確実であると感じている。

独立行政法人工業所有権情報・研修館
人材開発統括監 大森 伸一
2022年3月

特許研究 PATENT STUDIES No. 73 (March 2022) ©

令和4年3月31日発行

編集・発行 独立行政法人工業所有権情報・研修館 特許研究室
〒105-6008



東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー8階
電話：03-3581-5092 FAX：03-5843-7693
HP (<http://www.inpit.go.jp/index.html>)

印刷所 株式会社まこと印刷

※落丁・乱丁本はお取り替え致します。